



川口の教育



【令和5年度埼玉県優秀な教職員表彰報告会 12月1日（金）川口市教育委員会】

前列左：川口市立北中学校 廣瀬 雅子 教諭 前列右：川口市立前川小学校 小沢 篤 事務主査

第655号

【目次】

指導の手引き

中学校英語科「5ラウンドシステム」導入開始から3年 成果と今後の展望について

川口市教育局学校教育部指導課 指導主事 千葉 悠・・・(2)

私の教育実践

「実践的・体験的な活動を通して学びを深める家庭分野の授業実践」

川口市立東中学校 教諭 小川 みどり・・・(3)

生涯を楽しむために、食への興味・関心の入り口を作る

川口市立西中学校 栄養教諭 鴨下 真美・・・(4)

教育ルポ

・・・(5・6)

12 月号

—令和5年—

中学校英語科「5ラウンドシステム」導入開始から3年 成果と今後の展望について

川口市教育局学校教育課指導課 指導主事 千葉 悠

1 はじめに

本市中学校では、中学校学習指導要領（外国語科）で示された「即興で話す力」の育成と、「英語で行うことを基本とする授業」の実現に向け、令和3年度より、ラウンドシステム指導法（※）を軸とした授業改善を実施している。目標は、「自分の考えや思いを英語で表現できる生徒」の育成である。

（※）教科書のストーリー（全単元がひと続きの物語）を年間で5巡繰り返し聞いたり、読んだりする学習方法で、ラウンドごとに学習の目標を変えながら、ストーリーを通して英語表現をインプットする。最終ラウンドでは、ストーリーを自分の言葉で話したり、書いたりするアウトプットを数多く行うなど、使いながら言語を習得する。

2 全国・県学力・学習状況調査から見る生徒の変容

今年度の成果は、聞く力と話す力にみられた。「聞くこと」の領域では、県学調において、直近の過去9年間で最も高い結果となり、「話すこと（発表）」の領域では、全国学調において、全国平均を上回る成果が見られた。

埼玉県学力・学習状況調査 平均正答率 <聞くこと>

学年	埼玉県	川口市	県との差
中3	56.7	58.9	+2.2
中2	62.7	63.8	+1.1

一方で、「書くこと」の領域には課題がみられたが、第二言語習得の順序（聞く→話す→読む→書く）から考えると、聞く、話す力が着実に身につけてきている現状を踏まえ、今後も、ラウンドの特性を生かし、教科書のストーリーに沿った英語の語句・表現を、シャワーを浴びるかのようにたくさん聞いたり、読んだりさせる豊富なインプットを主軸に、話したり、書いたりするアウトプットの場を適度に取り入れながら定着を促していきたい。



3 英語科教員の変容と今後の展望

本市英語科教員の「授業に対する見方・考え方」が変わってきたことが、授業のアプローチ方法の変化や、指導課訪問、GTEC事後面談における先生方からのお話から伺える。特に、ラウンド導入3年目の今年度は、第二言語習得理論に基づいた本指導法そのものの理解が深まり、生徒の実態に即した様々な工夫が指導に加えられている。具体的には、「何を教えるか」という教師側の視点から、「どう学ばせるか」という学習者側の視点に変わり、「教師が各ラウンドをどうやるか」ではなく、「生徒にとって力がつく学ばせ方は何か」という視点で授業が工夫され、この授業改善が生徒の学力向上に繋がってきていると捉えている。



そこで今後は、指導の「質」の向上に取り組んでいきたいと考える。例として、今、自分が授業で行っている Small Talk/発問の仕方/音読のさせ方/ペアの組み方等は、「生徒にとって力がつくやり方かどうか」を振り返り、各ラウンドで行う学習活動の「質」の向上を図ることで、更なる生徒の学力向上に取り組みたい。

以下は、本市5年経験者研修・教科別研修にて、英語の授業における「生徒の学びの質を高めるポイント」として確認した チェックリストの一部である。ご自身の授業を振り返り、改善の一助としていただきたい。

～ 生徒の学びの質を高める

英語の授業のあの手この手～



- Small Talkには、中間指導を入れているか。
 - ☺ Small Talkは、生徒が臆することなくやりとりできたら中間指導で質をあげる。「間違った表現のまま4回トークする」のか、「2回トークし、学級全体に指導を入れて、正確性をあげて更に2回トークする」のか、同じ4回でも質の向上は歴然である。
- 「3分間 Writing (Small Talk後に会話の内容を書く活動)」をやったままにしていないか。
 - ☺ 3分間Writingも、生徒が書ける語数が増えてきたら、次時やWriting後に、誤答を取り上げてフィードバックを行ったり、その間違いを生徒自身に考えさせたりするエラーコレクトで正確性をあげる。
- 単語や文を発話させる方法が“Repeat after me.”一択になっていないか。
 - ☺ “Read aloud.”で、まずは自力で読ませてみる。ラウンドで繰り返し聞かせた単語や文ならなおのこと、まずは生徒に発話させてみてはどうだろうか。
- 音読は、教科書を手にもたせるなどしているか。
 - ☺ 合唱指導と同様で、下を向いて、腹を丸めた姿勢では良質な音読とはならないはずである。
- 活動の前には、ゴールイメージをもたせるための「モデル」を示しているか。
 - ☺ 生徒に本時または単元の終末に到達させたい「姿」を教師が具体的にやってみせる。
- 活動内容に応じてペアの組み方を工夫しているか。
 - ☺ 自席を離れて自由にペアを組む方法が良い活動と、隣席ペアの方が効果的な活動とがある。
- 宿題は、意図をもって課しているか。
 - ☺ この宿題に取り組むことで「何ができるようになるか」を明示し、目的をもって取り組ませる。

4 おわりに

本市の英語教育改革が、このように一歩前進の3年目を迎えられたことは、ひとえに先生方の献身的なお取組と、高き志によるものである。今後も、本市生徒のいきいきと英語でやりとりする姿の実現に向け、川口の英語教育に携わる皆様と一丸となって取り組んでいきたい。

<私の教育実践>

「実践的・体験的な活動を通して学びを深める家庭分野の授業実践」

川口市立東中学校 教諭 小川 みどり



1 はじめに

中学校技術・家庭科の家庭分野の目標は「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成すること」である。

生活を営む上で必要な内容を学習する家庭分野では、学びを深め、生活に生かすために「実践的・体験的な活動」が非常に大切である。今回は、今年度実施した「幼児の生活と家族」の題材より「幼児との触れ合い体験」と「調理実習（幼児のおやつ）」の実践を紹介する。

2 幼児との触れ合い体験

今年度、近隣の保育所の協力のもと、「家族・家庭生活」の学習において、幼児との触れ合い体験を4年ぶりに実施することができた。

(1) 遊びの計画

遊びのイメージができるよう、幼児が保育所で遊んでいる様子を動画で見せ、身の回りにある物や自然の素材を用いた遊び、言葉や身体を用いた遊びなど、様々な遊びがあることに気付かせた。また、その遊びがどのような発達を促すのかを考えさせた。これらの学びを生かして、触れ合う幼児の発達段階を考えながら、自ら遊び道具を製作したり、GIGA スクール端末を使用し、手遊びや絵本を読む練習をしたりと、積極的に計画する姿が見られた。

日時	内容
9:10	幼児との触れ合い体験の準備
9:15	幼児との触れ合い体験
9:30	調理実習（幼児のおやつ）

幼児と遊ぶ姿をイメージしながら準備をした。

前半・後半で遊ぶ場所を変え、グループごとに4つの遊びを考えた。中学生の動き、説明の言葉、幼児の動き、分担など、細かく計画を立てた。

(2) 訪問

訪問の前時には、幼児とのよりよい関わり方を学ぶための体験であるということと、①幼児の発達と生活の特徴 ②保育士の言葉がけや関わり方 ③よりよい関わり方の工夫 の3つの視点で学ぶよう指導した。当日は、計画した遊びを通して幼児と触れ合い、充実した時間になった。



(3) 生徒の振り返りより

- 発達には個人差があり、それぞれに合った接し方をすることが大事だと感じた。
- 今後友達の兄弟や近所の子と触れ合う時には、しっかりと話を聞いたり、周囲に目を配ったりしたい。
- 発達段階に合わせて、見守ったり手伝ったりしたい。

まさに、「百聞は一見に如かず」であった。幼児の発達と生活の特徴についての学びがより深まったり、今後の幼児との関わり方を工夫しようとする意欲が高まったりした。

3 調理実習（幼児のおやつ）

栄養を補う役割以外に大切なことは何かを、実習を通して考えられるような学習展開を心がけた。自分で調理をして食べることで、幼児が楽しく食べられるような見た目や食べやすさなども大切だと気付くことができていた。

にんじん 蒸しパン

彩りが良く、幼児の小さい手でも食べやすいと気付くことができた。

4 おわりに

今年度は、コロナ禍以前とほぼ変わらない授業を行うことができ、学びを深めるために、「実践的・体験的な活動」は欠かせないものだというのを改めて実感した。今後も、様々な活動を通して生徒の学びを深め、知識や技能を生活に生かすことができるよう、日々精進していく所存である。



1 はじめに

栄養教諭の職務は、「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことである。そのために、私は、栄養バランスの取れた給食を子どもたちが安全安心においしく食べられるよう献立作成や衛生管理をしたり、学校に出向き担任と授業を行ったりしている。

食育の推進は、学校・家庭・地域が連携して行わなければならない。特に、子どもたちの食生活の改善を図っていく際は、家庭を中心にしながら学校においても積極的に取り組むことが重要である。

2 給食センターに勤務して

南平学校給食センターでは、小学校9校、中学校7校、およそ8100人分の給食を作っている。私は所属校の西中学校以外に、小中合わせて5校を担当している。所属・担当校における実践を紹介する。

①食に関する授業

小学校4年生を対象に、「食べ物からのSOS～おやつを取り方を考えよう～」をテーマに授業を行った。普段食べているお菓子



に、どのくらいの塩、油、砂糖が含まれているのか、なぜ「成人病」が「生活習慣病」と名称が変わったのかなどを説明し、サラサラな血とドロドロな血を模型で示した。模型を用いて視覚に訴え、4年生の児童にもわかりやすく示すことで、理解を深めることができた。

②川口の元気 夢わ〜く職業体験事業



10/31～11/2の3日間、西中学校1年生の男子生徒4名が南平学校給食センターに職業体験に来た。1日目は主

に栄養士の仕事を体験し、放射能測定も見学する

等、どのようにして安全安心な給食が守られているのかを知った。生徒から「ありがたい」という言葉が出たのが印象的だった。2・3日目は実際に野菜洗いから釜調理、午後の洗浄まで、調理員の仕事を体験した。大量の野菜の重さ、釜調理の大変さ・暑さ、そして給食を作った調理員が学校で食べられずに戻ってきた給食の処理をし、その残菜はゴミとして回収されることを知り、「学校へ帰ったらおかわりをする。周りの友達にも話す」と言ってくれてとても嬉しかった。



③その他

担当校には年4回赴き、給食の巡回指導をする。また、給食試食会や授業も依頼をもらって行っている。川口市は全校に栄養職員がいるわけではない。センター配送校で食育に関して困っていることがあれば、担当栄養士に遠慮なく相談してほしいと思う。

3 おわりに

最初にも述べたが、「食育」は家庭との連携が必要である。以前私が委託栄養士として小学校に勤務している際、「うちの子、毎日先生が教えてくれたことを話してくれるんです。」と言われた。また、授業後の子どもの感想にも「今日学んだことを家族にも教えたい」と書かれていることがある。

我々栄養教諭(学校栄養職員)は、食育だよりや面談などで家庭と繋がることはできるが、学校と家庭での食育の架け橋となっているのは案外子どもなのかもしれない、と思う。子どもたちが家族に話したくなるような、食に対する興味関心の入り口を作ることが「食育の推進」には必要であると私は考える。

教育ルポ



川口市マスコット「きゅぼらん」

各学校・園では、研究発表会や音楽会など、多くの行事が行われていました。子供たちも先生たちも、充実した学校生活や教育活動に取り組んでいます。

各学校の取組の様子①

【上青木南小学校】



校内音楽会



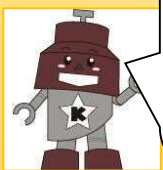
さす股などを使って、不審者を追い詰めています。

不審者侵入想定避難訓練研修



壁側に机を寄せて、机の下に避難する準備をしています。

台風対応避難訓練



子供たちが練習の成果を存分に発揮した校内音楽会、保護者の方からの大きな温かい拍手が、子供たちの自信につながりました。



警察の方から、気を付けることを学びました。



机の下に潜り、竜巻が通り過ぎるまで身を守っています。

【南平幼稚園】

～令和5年11月22日 市教委委嘱研究発表会～

年長すみれ組



年中さくら組



年少たんぽぽ組





各学校の取組の様子②

【在家小学校】



不審者侵入想定避難訓練研修



6年生 修学旅行



人権の花運動



5年生 映像学習



小中連携クリーンキャンペーン



夢わ〜く（在籍中生徒受入れ）

【本町小学校】



開校150周年記念式典 11月11日

【芝中学校】



委嘱研究発表会 11月27日

【十二月田小学校】



埼玉県体力課題解決研究指定校発表 11月30日

【西中学校】



地域ふれあい祭り 10月22日